

『THE 内科専門医問題集1[WEB版付]—総合内科ⅡⅢ・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓』 正誤表

このたびは『THE 内科専門医問題集1[WEB版付]—総合内科ⅡⅢ・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。第1刷（2021年4月5日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2022年03月18日作成

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1	p.17 本文3行目冒頭	78歳の男性	73歳の男性	2021/6/1
1	p.17 既往歴3行目	ワルファリン 2.5mg/日内服で入院時PT-INR 1.7	ワルファリン 2.5mg/日内服でPT-INR 1.8	2021/6/1
1	p.17 問2 問題文	検査前の抗血栓薬の取り扱いについて正しいのはどれか。	検査前の抗凝固薬の取り扱いについて最も適切なのはどれか。	2021/6/1
1	p.17 問2 選択肢	a 5日前からワルファリンを中止する。 b ワルファリンを続行して観察のみ行う。 c 検査前日から直接経口凝固薬へ切り替える。 d 検査当日の朝にワルファリンを中止してヘパリン持続点滴を開始する。 e ワルファリンを継続しつつ、ポリープがあればポリープ切除まで行う。	a ワルファリンを継続して観察のみ行う。 b 検査5日前からワルファリンを中止して観察のみ行う。 c 検査3日前からワルファリンを直接経口抗凝固薬へ切り替え観察のみ行う。 d 検査5日前からワルファリンを中止、ヘパリン持続点滴へ切り替え観察のみ行う。 e ワルファリンを継続して観察を行い、ポリープがあれば事前に検討してなくてもポリープ切除まで行う。	2021/6/1
1	p.18 左段、問2 正解	b ワルファリンを続行して観察のみ行う	a ワルファリンを続行して観察のみ行う	2021/6/1
1	p.18 左段、解説2 3行目、6行目	3行目：抗血栓薬の継続判断に関しては6行目：血栓薬中止による	3行目：抗凝固薬の継続判断に関しては6行目：凝固薬中止による	2021/6/1
1	p.18 右段、2～3行目	高リスクとされ、抗凝固薬の中止が推奨されることが多い。	高リスクとされ、血栓症リスクを勘案して抗凝固薬の中止やヘパリンの置換を検討する必要がある。	2021/6/1
1	p.18 右段、4～12行目	直接経口抗凝固薬は……判断を迫られる。	すべて削除	2021/6/1
1	p.18 右段、20行目	(b, a, c, d)	(a, b, c, d)	2021/6/1
1	p.18 右段、20～27行目	しかし、ポリープ切除は……十分に説明しておく。	しかし、ポリープ切除は出血リスクが高いため、より慎重な判断が求められる。日本消化器内視鏡学会のガイドラインによれば、血栓症リスクが高い場合、出血高リスクであってもPT-INRが治療域であればワルファリン継続下あるいは非弁膜症性心房細動の場合にはDOACへの一時的変更で内視鏡処置を行うことも考慮される。一方、米国のガイドラインでは、1cmを超えるポリープ切除の場合においては出血リスクが高いと判断され、ワルファリン投与下では避けるべきとされており、処置数日前からのヘパリン置換などが考慮される。抗凝固薬の中止・継続、ヘパリン置換に関して質の高いエビデンスは必ずしもないので、個々の症例に応じて担当医・専門医とも連携をとり、施設基準も参考に判断することが望ましい。合併症のリスクについて患者・家族に十分に説明した上で対応を検討すべきである (e)。	2021/6/1
1	p.18 右段、参考文献1)	1) 藤本一真, 他: 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン. Gastroenterol Endosc 2012 ; 54 : 2073-2102.	1) 加藤元嗣, 他: 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン: 直接経口抗凝固薬 (DOAC) を含めた抗凝固薬に関する追補2017. Gastroenterol Endosc 2017 ; 59 : 1547-1558.	2021/6/1
1	p.26 左段、解説1 10行目	仰臥位や左側臥位で誘発され,	仰臥位や右側臥位で誘発され,	2021/6/1
1	p.53 表下部、引用文献著者名	Lawton, M.P & Brody, E.M.	Lawton MP, Brody EM :	2021/6/1
1	p.142 右段、参考文献1)	(第3版) . 2017	(第3.3版) . 2021	2021/6/1
1	p.144 右段、参考文献1)	(第7版) . 2019	(第8版) . 2020	2021/6/1
1	p.146 冒頭、診断	診断: NAFLD	診断: ALD	2021/6/1
1	p.201 問の選択肢a	a 側副血行路が寄与している病態である。	a 側副伝導路が寄与している病態である。	2021/6/1
1	p.347 問の選択肢b	b セベラマー塩酸塩	b 炭酸ランタン水和物	2021/6/1
1	p.348 左段、正解	正解 b セベラマー塩酸塩	正解 b 炭酸ランタン水和物	2021/6/1
1	p.348 左段、解説 12～13行目	濃度は正常であり治療としては……リン吸着薬であるセベラマー塩酸塩の使用	濃度は正常であるため、治療としては……リン吸着薬であり、保存期慢性腎不全患者にも使用できる炭酸ランタン水和物	2021/6/1

『THE 内科専門医問題集1[WEB版付]—総合内科ⅡⅢ・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓』 正誤表

このたびは『THE 内科専門医問題集1[WEB版付]—総合内科ⅡⅢ・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。第2刷（2021年6月1日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2022年3月18日作成

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
2	p.18 左段、問2 正解	a ワルファリンを続行して観察のみ行う	a ワルファリンを継続して観察のみ行う	2022/3/18